

第49回社会人野球日本選手権大会

Aブロック	マツゲン 箕島	29日18時
	NTT 東日本	11月4日10時
	日本製紙 石巻	11月2日14時
	トヨタ自動車	11月6日18時
	JR 東日本	31日10時
Bブロック	西部ガス	11月4日14時
	日本新薬	31日14時
	T D K	11月8日14時
	ENEOS	31日18時
	ミキハウス	11月4日18時
Cブロック	日立製作所	11月2日10時
	JR 東海	11月7日10時
	JFE 西日本	11月1日14時
	JR 北海道クラブ	11月5日10時
	三菱自動車オアシス	30日10時
Dブロック	JR 四国	11月9日13時
	JR 西日本	11月3日18時
	王	11月5日14時
	NTT 西日本	11月1日18時
	Honda	11月7日14時
Eブロック	明治安田	11月2日18時
	ヤマハ	11月5日18時
	Honda 熊本	30日14時
	東芝	11月8日18時
	三菱重工 West	11月3日10時
Fブロック	日本製鉄 鹿島	11月6日10時
	三菱自動車 岡崎	30日18時
	東京ガス	11月7日18時
	日本製鉄 東海 REX	11月3日14時
	三菱重工 East	11月6日14時
Gブロック	JR 九州	11月1日10時
	パイタル ネット	

三菱重工East 夏秋連覇狙う

第49回 社会人野球 日本選手権

主催・毎日新聞社 日本野球連盟
共催・大阪市

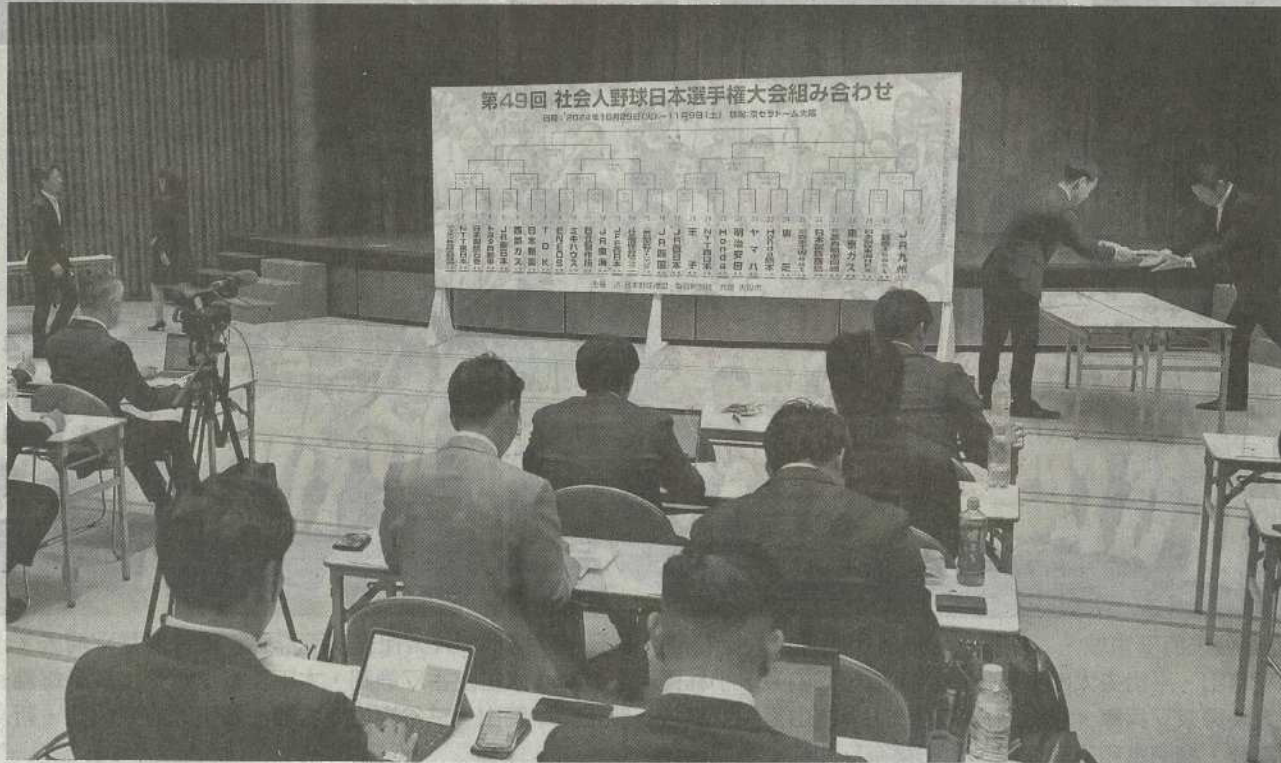
29日から熱戦

第49回社会人野球日本選手権大会(毎日新聞社、日本野球連盟主催、大阪、市共催)の組み合わせ抽選会が2日、大阪市北区の毎日新聞大阪本社1階のホールで開かれ、出場32チームの1回戦の対戦カードが決まった。

マツゲン開幕戦

10月29日の開幕試合でNTT東日本(東京)と対戦するマツゲン箕島(和歌山)の西川忠宏監督は「10ある力を20、30にして出さないと勝てない」と、全日本クラブ選手権優勝からのスケールアップを狙う。

今夏の都市対抗を制し、「夏秋連覇」を目指す三菱重工East(神奈川)の佐伯功監督は「常勝チームになるために全ての大会を取りに行きつくりたい」と、しっかりと野球ができれば可能性は十分にあると思う」と自信を見せた。初戦は日本製鉄東海R



第49回 社会人野球日本選手権大会組み合わせ抽選会

対戦チームが次々と決まった第49回社会人野球日本選手権大会の組み合わせ抽選会
—小関勉撮影

ミキハウス19大会ぶり

EX(愛知)。今大会最多32回出場の大塚(神奈川)と対戦する前回準優勝のHonda熊本(熊本)の渡辺正健監督は「目標は全国大会で常にベスト8に入ること。2勝した上で『去年と違う景色が見られたら』という思いで全員がやっている」と語った。

出場チーム最多6回優勝のトヨタ自動車はエースの嘉陽宗一郎や増尾翔太ら投手陣は堅固で、2回戦敗退となった都市対抗の悔しさを晴らしたい。NTT東日本は左腕・長久保晃成や正捕手の野口泰司ら若手を軸に投打ともに安定感がある。都市対抗で補強選手として久慈賞に輝いた右腕・小島康明を擁するTDK、日本製紙石巻と東北勢が同ブロックになり、再び躍進を狙う。クラブ選手権覇者のマツゲン箕島は企業チームに食い下がりた。

トヨタ 投手陣堅固 Aブロック

投打にENEOS Bブロック

2度の優勝経験がある名門・ENEOSを軸とした戦いが予想される。加藤三範、阿部雄大ら投手陣は安定しており、打線も丸山壮史を中心に地力が高い。初戦で対戦するミキハウスは19大会ぶりの出場。今季加入の元巨人・桜井俊貴の出来が勝敗を分けそうだ。JR東海は三村政喜、山崎大輝らが都市対抗で補強選手として活躍した。2年ぶりに2大会出場を果たした日立製作所や、四国予選で打線が爆発したJR四国にも注目だ。

ヤマハ投手陣が鍵 Cブロック

今夏の都市対抗8強の明治安田とヤマハは同大会1回戦の再戦となる。夏に11失点でコールド負けしたヤマハは、エース佐藤廉ら投手陣の出来が鍵を握る。東芝は都市対抗を逃したが、補強で三菱重工Eastの優勝に貢献した下山悠介ら強打者がそろい地力が高い。前回準優勝のHonda熊本も主砲の稲垣翔太らが強打で応戦したい。HondaはNTT西日本のプロ注目左腕・伊原隼人、ベテラン右腕・浜崎浩大の両輪を崩せるか。

東京ガスしぶとさ Dブロック

今夏の都市対抗を制した三菱重工Eastが中心となりそうだ。本間大輝、大野亨輔ら都市対抗全試合を2失点以下に抑えた投手陣の安定感が際立つ。都市対抗4強の東京ガスは中尾勇介を中心に打線にしぶとさがある。左腕・秋山翔を擁する三菱自動車岡崎は、初戦でコールド負けした都市対抗の雪辱を期す。二つのJABA大会を制した日本製鉄鹿島は、櫻村昌樹が打線をけん引。三菱重工Eastはエース右腕・竹田祐に力がある。

トヨタ自動車・藤原航平監督 日本製紙石巻は都市対抗で試合を見たが、生長(蓮)君、秋田(稜吾)君ら投手の枚数がそろっている。攻撃も好投手に振り負けず、積極的に走るなど結構動いてくるチームという印象。こちらも投手中心に相手の細かい動きにも対応して、ディフェンスをしっかりしなければいけない。

ENEOS・大久保秀昭監督 (ミキハウス)は細かいきっちりとした野球が印象的。(元巨人の)桜井(俊貴)君はプロ時代の体力が戻ってきて落ちる球も良い。対策もするが、少ないチャンスで一本出るか出ないか、そこがポイントになる。

Honda・多幡雄一監督 NTT西日本は(8強入りした)今年の都市対抗の印象が強い。勢いに乗ったら止まらず、大量点を取る爆発力がある。うちは投手陣の調子が良く、野手が後ろで安定して守れるのがストロングポイント。相手打線を勢いに乗らせないようにしたい。(勝つには)しっかりと食らいついて、粘って攻略するのが一つかなと思う。

日本新薬・鎌田将吾監督 TDKは、都市対抗で(JR東日本東北の)補強選手として活躍した小島康明投手を中心に、守り勝つ野球をする印象。打線も切れ目がない。うちと似たチームで、接戦になると思う。小島投手とは現役時代に日本代表でバッテリーを組んだこともある。直球、チェンジアップ、カーブを丁寧に投げたい。絞らせない投球術を攻略したい。

ミキハウス・陣田匡人監督 (ENEOS)は、良い投手が何枚もいて誰が投げてきてもしっかりとゲームを作るし、打線も上位から下位まで良い打者がそろっている。うちは全力でぶつかっていくだけ。2022年の都市対抗でやられている(2-5で負け)ので、やり返したい。(ENEOSの)投手陣だと大量得点は難しい。勝つにはロースコアの展開に持ち込むしかない。